

## あすぴあ登録団体 & 市民活動団体の紹介

### こんな活動をしています

Vol.  
49

あすぴあ広報部会が  
取材しています。



◀ けん玉



▲ 江戸東京たてもの園他  
撮影会参加メンバー

コマ▶



## こだフォト部

2025年6月18日(水)に小平市中央公民館講座室1で開催の月例会に参加させていただき、「こだフォト部」の活動取材させていただきました。

【設立】こだフォト部は2018年12月19日に設立されました。現在の会員数は13名(うち女性2名)です。設立時のメンバーは、当時中央公民館で開催された文化・教養講座「カッコイイ写真の撮り方を学ぼう」の参加者の皆さんで、相原部長、岩本副部長の声掛けによるものです。

【設立の目的】その第一は地元の写真好きの仲間が集まり、撮影写真を持ちより講師(プロのカメラマン)からのアドバイスを通じてのスキルアップを図ること。その第二は会員の写真を活用した社会貢献です。



▲ 月例会参加者写真

月例会にて会員ひとり1枚の写真を選抜し、福祉施設わたしんち(滝山、上水本町)へ送っています。それを旅行等外出機会の少ない高齢者の皆さんに鑑賞してもらい、感想を頂いています。この双方向のやり取りは、会員のモチベーションにも繋がっています。

【活動】以下の活動を展開しています。

- 1) 月例会です。当部の活動の中心になるものです。毎月第3水曜日(19:00~21:00)中央公民館で開催(取材しましたので具体的に紹介します)
- 2) 年に1回の写真展の開催(場所の確保ができれば開催する)
- 3) 年に2回の撮影会の開催(自由参加)

【取材参加した月例会の様子】取材で6月18日(水)中央公民館で開催された月例会に参加、日頃の活動の様子を見聞させていただきました。出席者は講師を入れて11名でした。当日は前半で人物写真を撮るときの注意事項が、女性の写真(モニターに映した写真)を使って分かり易く、語られました。ポイントは、

無理にポーズを要求しないことでした。モデルと雑談をしながら、いい表情を引き出すことだそうです。後半では8名の会員が用意した7枚の写真を会場備え付けの大型のモニターに映し、会員がポイントを解説します。続いて講師の講評をえて、福祉施設へお送りする作品を決めるプロセスです。これを7人分やりました。本物の写真ではなくモニター写真でやられたのは、素晴らしいと思いました。岩本さんの知恵、技術が生かされているのには驚きました。写真に興味のある方は一度見学されたいと思います。(細)

### DATA

活動場所●中央公民館  
連絡先●080-3583-7530(相原部長)  
080-1269-2770(岩本副部長)  
メール●kodairaphotoclub@gmail.com  
FB●https://www.facebook.com/kodaphotoclub



## 昔あそび応援団

メンバーはシルバー大学\*42期~44期のOBと有志の12、3人。在学中の課題「地域コミュニティづくりー私たちが地域に対してできること」から、放課後子ども教室や授業支援、公民館などのイベントでご活躍中です。

### ●放課後子ども教室

その日は元学童の小部屋で行われました。黒板には大きく書いた「あいさつ」「あんぜん」「あとかたづけ」の貼り紙。メニューは「おてだま」と「たけがえし」です。

遊びの前のお約束はこうです。「みんなのお兄さんお姉さんたちとも約束してきたんだよ。みんなが使う道具だから綺麗に使って片付けましょうね。3つの「あ」を守ってね。」「はーい」。

10人ほどの1年生が正座で円くなり、お手玉を1つ片手で持って顔の位置まで投げて受け取る、というところからスタートです。受け取るのは、頭に乗せてお辞儀をする、背中に手を当てて後ろに落とすなど。子どもたちは自分のお手玉と格闘です。できる子の様子をじっと見つめる子もいます。手の甲ではじいて掴むという難しい技にも挑戦。「もうちょっと!」「がんばれ~」「やった~」と声を掛け合っていました。

次の「竹返し」は、600年前からあるという幻の遊びで、庶民が竹を削って遊び道具にしたそうです。



▲ 竹返し

基本の技は「なげ」「たち」「きり」「かえし」の4つ。竹が落ちるときの音が楽しめるようにテーブル席でやりました。単純ですがそう簡単にはできません。

メンバーの方々は、昔あそびの名人だった訳ではありませんでした。小川町一丁目児童館を見学したことで、学校コーディネーターや伝承遊びの先生との出会いがあり、今の活動に至っているそうです。「地域コミュニティは子どもが主体なんです。日本の伝承遊びは海外でのコミュニケーションツールにもなりますよ」と話してくれました。

### ●運営委員会

毎月中央公民館の工作室で開いています。発足当時はホームページやメールを使っただけで、更新の手間もあり、みんなで寄り合うことになったそうです。

そこでは出し合った今後の予定の確認や依頼情報を共有。菊地代表の小さな字で黒板はびっしりです。メンバーの旅行の土産話、直近の子どもの様子や学校の動き、意見や要望も話します。コミュニティの再生・復活をどう考えている?との問いかけが心に残りました。(さ)

主なメンバー▶



### DATA

連絡先●042-323-1977(菊地)  
メール●ymg.kikuchi@celery.ocn.ne.jp

## みんなで良い映画をみる会

1999年に「16ミリ映画をみる会」として発足し、時代とともに上映方法がDVDとなり、2019年に「みんなで良い映画をみる会」に変更。7月の上映会取材しました。

「私たちは、映画(DVD)を鑑賞し、語り合い、社会認識を広め、確かなものにするとともに、市民相互の交流の場をつくり、その輪を広げることを期待して集まります」と会の申し合わせ事項の最初にあります。

会の世話人は7名、当然のことながら映画大好きの方ばかり。リベラルな作品を中心に評判を呼んだ映画を世話人を選び、年間上映作品を決定します。16ミリ映画と比べるとDVDは借用代金も減り、資料代金を100円とすることができました。

原則として奇数月の第3土曜13時30分から小平市中央公民館で開催。7月19日、山田洋二監督の「学校Ⅰ」上映の折は開始時間の30分前から参加者が続々と来場。たちまち52席が埋まって満席となりました。配布された資料には公立の夜間中学



▲ 上映会開始前の会場

が舞台のあらすじや主演の西田敏行など登場人物の紹介。最後には参考として東京都の8つの公立中学校夜間学級の名前

まで掲載してあります。A4で4ページに及ぶ、会の姿勢が伝わってくるような資料です。熱心に鑑賞した参加者のみなさんからはエンドロールの最後に拍手が湧きました。「夜間中学って必要ですね。世間にもっと知ってほしい」「100円の資料代だけで、誰でもいい映画を見られるのですね」参加者の感想です。

このような会にも存続の危機がありました。長年続けている間に世話人が高齢化し、亡くなる方もいらして、昨年5月から1年間上映を休止したので。世話人代表の小俣さんはその間手伝える人を募集したり、昔のつてを頼りに人材を探したりと尽力しました。こうして新体制となった今年の5月に第237回「沖縄スパイ戦史」で再開。この映画は会にとって心に残るものになりました。「熱意とチームワークで続けている」「公民館の会場確保と資料作成に苦労している」と世話人の方の声。「若い人たちにも参加してほしい」のが小俣さんの願いです。

今回は9月20日18時30分よりアラン・ドロンの「冒険者たち」。(ま) ☆映画の好きな方、お手伝いをしてくださる方募集中!



世話人の方々(中央が小俣さん)▲

### DATA

連絡先●090-5425-4604(小俣千珂子)